

2017年12月1日

## 金融グローバル化と大学の国際化

津田塾大学 内部監査室長  
IIMA 客員研究員 阿波村 稔

銀行員、国立大学教員、私立大学職員という経験から、現在、日本の高等教育の場で議論されている「グローバル人材育成」、「大学の国際化」を考えてみたい。

国際金融の世界では、日々世界とつながることは、ごく当たり前のことである。一方、大学も歴史的には国境を越えて「知」の集積が行われたという意味で、本来、国際的なものである。ところが、日本の大学は、大学の国際ランキングにおける低迷に表れているように国際化に大きく後れをとっている。2004年の国立大学法人化以降、「留学生30万人計画」の掛け声の下、キャンパスの国際化が叫ばれ、産業界からの「グローバル人材」養成の要請から国際化に焦点があたってきた。2014年からは、世界のトップ100大学に肩を並べるためプロジェクトが立ち上げられ、外国人教員等の比率の向上といった数値目標が掲げられて国際化を推進する事業（スーパーグローバル大学創成支援事業）が公募され、現在37大学において事業が推進されている。

日本の大学における「国際化」には、様々な問題点が指摘されている。特に、人文科学系の世界では論文が外国語で書かれることが少ないため、優れたものであっても世界に認められにくい。英語で行う授業を増やすことが国際化の一つの条件となっても、日本語での細かなニュアンスを教員が英語で伝え、学生が主体的に議論に加わることは至難の業である。実現には、多大な努力と工夫、そして時間が必要である。

真の大学の国際化とは何か、グローバル化された金融の世界を振り返り、課題解決のヒントを探る。金融が国をまたがって機能する背景には、「通貨」という共通のツールが存在する。これらの取引を円滑にするのが「市場」である。その参加者同士のコミュニケーションの手段として、共通の言語「英語」が重用されている。取引の公平性、消費者保護のため様々な取引ルールが存在する。また、市場の安定性確保のためにリスクの管理強化の要請から様々な国際基準や規制が定められ、世界市場への実質的な参入ルールが作られた。

大学での「研究」は国境を越えて培われる。その研究交流という知的活動の広がり本来の大学の国際化である。教員による「研究」の次世代への継承が「教育」の本来の

姿である。大学にとっての「市場」は世界の研究仲間であり、ステークホルダーとしての学生、父兄、地域社会、企業社会である。「研究」というシーズを使って知的な営みの中で次世代を育て社会貢献をなすのが「教育」という大学の使命である。

大学の国際化にとって一番大切なのは、世界水準の研究を発掘し育てること。そのためには、研究者・学生に対して世界の「市場」に直に接する機会をできるだけ早くかつ多く与えること。具体的には、分野に関わらず、優れた研究に関わる研究者、グループに対して資源を投じて徹底的にサポートし、世界での市場価値を高める努力をすることである。「英語」は伝達的手段と割り切る。英語による授業については、一流の選別された「研究」に対して人的資源を集中投入する。専門分野の教員と語学の教員をペアで授業に参加させてもよい。このような取り組みの中で、世界水準の研究交流を進め、国際通用性のある教育内容を提供すれば、世界各地より留学生が自然と集まってくる大学を創成することができる。

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2017 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話 : 03-3245-6934 (代) ファックス : 03-3231-5422

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <http://www.iima.or.jp>